投書

市庁舎内に情実採用の疑惑

先日、また三島市における聞き捨てならない話を耳にした。なんと、職員の不正採用疑惑だ。それも豊岡市長の一番の側近として一年中行動を共にする、幹部職員のご子息に係る疑惑である。

当ご子息、三島市が平成29年中に行った職員採用試験に合格し、今年4月から正規職員として雇用されているそうだ。耳を疑ったのは、その前年にも採用試験を受験し合格していたにもかかわらず、大学を卒業できなかったという自己都合により辞退していたという。

しかも、平成29年に二度目の合格が決まり、翌年（平成30年）4月の就職までの約半年間、三島市役所の臨時職員として雇用されていたというのである。それも幹部職員の口利きがあったとの噂も聞く。どうしたらこんなことができるのであろうか。

ちなみに、臨時職員といえども法律上は地方公務員であり、その採用に当たっては、法律に従い公正公明な手続きが義務付けられている。

だからこそ公務員の採用に関しては、法律により厳しいルールを課し、時の権力者の自由が効かないよう制限をかけているのである。

その厳正なルールの下、豊岡市長と最も長い時間を共にし、時には助言も行うであろうし、公私に渡り一体となって市長を支える立場の幹部職員の息子が、こともあろうに訳あり辞退の翌年も合格したと聞けば、市民や世間はどう思うであろうか。不正が行われたと疑われても仕方ないのではないか。

公務員試験に2年連続で合格するほどの優秀な人物がなぜそのような事態になってしまったのか。辞退の理由が理由であるだけに、なおさら勘ぐってしまうのである。

幹部職員という市の職員として特別な立場にある者の息子であれば、この状況での再度の合格にはことさら慎重を期す必要があるのではないか。「瓜田に履を納れず」である。

これは公務員試験に限ったことではない。むしろ民間こそ、雇用した人物次第で、会社の業績や名誉にさえ直接影響を及ぼす可能性もある。その面からも「採用」は重要な役割を担っている。

公務員の不正採用に関しては、山梨市長が逮捕された事件は記憶に新しいが、一自治体の最高権力者である市長には、このくらいのことは簡単にできてしまうのであろう。だからこそ法令順守を確実に実行するために、内部通報制度や内部統制という制度がある。

各自治体は自浄作用が働くよう、職員個人の違法行為や、組織的犯罪を防ぐための監視機能を設置し、公務員として自治体として住民に信頼されるための手立てを講じるのである。いくら法律・制度があっても、それを機能させられなければ絵に描いた餅であり、意味がない。そんな観点から改めて眺めてみると、先ほどの採用にはやはり違和感を持たざるを得ない。

臨時職員としての採用の過程においても、幹部職員の地位を利用し、働きかけを行ったこと自体に問題があり、さらにその働きかけが考慮された結果の採用決定であるなら、二重の不正がそこにある。

このようなことが三島市役所内で日常的に行われているのだとしたら大問題だ。たいていの市民は市役所は間違いをしない、正しい、と信じている。その信頼を市長も職員も、もっと重く受け止めなければいけない。このようなことがあると、他にも何かあるかもしれないという疑念がわく。それは絶対あってはならないし、あるとするなら原因を追究し、再発防止の手立てとともに、即刻正さなければならない。

来月は市長選挙が行われる。この機会にこの8年間を謙虚な気持ちで振り返り、身の丈に合った市政の実現と、公平公正で真に信頼される組織づくりを心掛けて行かなければならない。

決して市民は派手なパフォーマンスを求めてはいない。

〈匿名氏〉

県東部労農運動家列伝（１）

久保田　豊　③

岩崎光好（女優富士真奈美の父親）著「東静無産運動史」から、

堺屋印刷争議の勝利

現在三島市田町に当たる地に、昭和5年当時、株式会社堺屋印刷所があった。住本嘉十郎氏を社長とし、この土地生え抜きの豪商で、印刷所のほかに同町西南端に静岡製紙株式会社（後に三島工業）の社長として郡下きっての財閥として有名な人物であった。

しかし、堺屋印刷所も北伊豆地震で工場は倒壊し、会社側は当分の間、工場閉鎖を実施することとなり、年末中に整理案が発表された。その内容は従業員（二十余名）の半数を解雇し、被解雇者中の数名を傍系会社の静岡製紙工場従業員として転勤を命ずるというのであった。

整理案は不要とみなす者は高圧的に退職を迫るとともに、解雇手当は一銭も支給せず、苛酷な態度に出る一方、必要な残留人員に対しては賃金切り下げを強要した。

従業員側はただちに会社側に嘆願書を提出するに及んだが、会社の態度は強硬で、要求は一蹴されてしまった。

従業員側のリーダー格は芹沢総一郎青年であった。この青年は覆面の極左系指導者、田方農学校教諭久保田豊氏や、『戦旗』関係の酒井光好などと密接な関係にあり、さっそく三者間でその後の措置を検討した結果、来春早々を期して争議を決行することになった。

久保田は当時、争議にはまったく未経験なことから、豊富な闘争経験を有する労農党沼津支部に連絡をつけ、指導応援を乞うた。

昭和六年一月中旬、極秘裡に争議団が結成され、争議団本部には、労農党沼津支部から渡辺元治郎、植松七之助氏の各常任書記がかけつけ、地下指導部、交渉、宣伝、兵站、特別行動隊などの各部門が設けられた。準備は完了し、一月中旬の寒夜に、突如、争議の火蓋が切って落とされた。

会社に対しては、解雇撤回等の申入れが行なわれた。

争議を通じて戦闘的労働者の大同団結が企図され、特別行動隊の活躍は本格化し、東京麻糸、東京モスリン（現大東工業）など近郷所在総同盟系の工場労働者に対しても執拗な扇動、宣伝が敢行された。

この間、官憲の弾圧もかなり露骨に行なわれ、ビラ撒きの最中を組合員が沼津署員に検束されるなどの憂き目にあった。また真相発表の演説会なども終始官憲の厳禁するところとなっていた。

争議もようやく末期入り突如、三島町上空から次々に赤色の紙片が舞い下って、巷に行き交う人々を唖然とさせた。それは争議団から町民に訴える真相暴露の紙の風船爆弾にほかならなかった。西風に乗せて香貫山から飛ばせた風船によるものであった。

強硬な会社側もついに屈伏した。従業員側の圧倒的勝利のうちに解決を告げたが、瞬間、それまで満を持して待機していた警察陣の弾圧となって、全員三島署に総検束を食らった。しかし、この争議こそは田方郡下に於ける初の組織的な労働争議として特筆されるものだった。〈H〉

次号に続く

アサギマダラ

香貫山麓に飛来

日本で唯一冬を前に海を渡って沖縄や台湾などの温かい所で過ごすアサギマダラという蝶をご存じでしょうか？暑い夏には信州八ヶ岳の涼しい所で過ごし10月頃伊豆半島に立ち寄るようです。

そのアサギマダラに会いたいという友人に誘われて西伊豆の松崎の先、雲見の更に先の天神原植物園に出掛けたのは昨年10月末でした。でも蝶は旅立った後でした。その後静岡の昆虫標本展でアサギマダラ（標本）を見て気がつきました。

この蝶なら会ったことがある！以前うちの庭にフジバカマの花がかたまって咲いている所で、それとは知らずに。

そこで庭に少し残っていたフジバカマを整えたところ今年は花が群生、なんとそこにあのアサギマダラが3匹静かに羽を閉じたり広げたり優雅に蜜をすっていたのです。それは今年の10月20日のことでした。

それから一週間、10時過ぎから3時過ぎまで陽のあたる頃やってきました。多い日は5匹！。勿論友人も

沼津アルプス登山口にあり海まで2キロ程の所で牛臥山とその両側の海がみえます。こんな所にフジバカマが今年は状態よく咲いているのをどうやって知るのでしょうか？強い香りがあるようには見えないし。ところがドライフラワーにするといい香りと植物に詳しい友人が教えてくれました。きっと存在を知らせる手段があるのでしょう。

来年又きてもらえように今、フジバカマを増やしています。〈M〉

身近な薬草エノコロ草

エノコロ草はネコジャラシともいい愛らしい雑草だが、今から百数十年前は丹波などの地域では雑草ではなく、畑で栽培し食用や家畜の餌になっていたらしい。マコモやジュズダマが、ずか百年ほど前にはまだ食用にされていたことを知る人は少ない。今は食用とは思われていないが、粟の原種であるので食べられる。近代以前の農村では酷い飢饉の際にカラスムギなどと共にこれを食用としたことももあった。【料理】若い葉と花穂は軽く火であぶり醤油などで味付けしたり味はポップコーンに酷似）

何回も会いにきました。私の住まいは香貫山の南側、山とその両側の海がみえます。こんな所にフジバカマが今年は状態よく咲いているのをどうやって知るのでしょうか？強い香りがあるようには見えないし。ところがドライフラワーにするといい香りと植物に詳しい友人が教えてくれました。きっと存在を知らせる手段があるのでしょう。

来年又きてもらえように今、フジバカマを増やしています。〈M〉

（昭和19年）には「エノコロ草の穂を採取し、揉んで種子を採り、臼で搗いて粥または飯に炊くほか、揉んで採った種子を石臼で挽いて粉末となし団子にして食す」と書いてある。【ネコジャラシティー】エノコロ草の穂を揉んで種子を取り軽くフライパンで炒る。すり鉢に入れすりこぎ棒でつつき、息を吹きかけて殻を取る。大さじ2ほどをお茶パックに入れ水1リットルで煮出し沸騰したら火から下ろして暫く置くと美味しいお茶になる。〈J〉

天ぷらに。『本邦郷土食の研究』

本棚だより（19）

問宮　緑

『台湾生まれ 日本語育ち』 温又柔 著 白水Uブックス

小説家 温又柔（おん・ゆうじゅう）によるエッセイ集。台湾人の両親のもと台湾で生まれた著者は、三歳のとき両親と共に東京に移住。幼稚園で日本語を学び始めた。

「なんと言ってもここは日本。だから、まずは日本語を」――父の決断により「ふつうの」公立小学校に入学した著者は、中国語を「母語」として育ち、中華民国政府の教育を受けた両親は中国語（普通語）を「母語」として育った。日本語の強制と中国語の強制。言語の支配に翻弄された家族だが、今では祖父母と両親は台湾語まじりの中国語で会話している。

日本人にしては上手。台湾人にしては下手……中国語を話すたびそう言われ続ける著者は「わたしの『母語』って何だろう？」と自問する。貿易会社に勤め日本語を流暢に話す父と違い、移住後に日本語を学び始めた母は、日本語・中国語・台湾語をまぜこぜにして話す。

そんな母にいらだち、学生の著者は「どうしてママは、ふつうのお母さんみたいに、ちゃんと日本語を喋らないの？」と非難の言葉を投げつけてしまったこともある。だが、この「ママ語」こそ他でもない自分の「母語」ではないか？

「中国人には『南っぽいね』とからかわれ、台湾人には『日本人っぽいよ』と笑われ、中国語が堪能な日本人には『でたらめだなあ』と苦笑される自分の中国語を、わたしはとても自慢に思っている。なぜならわたしの中国語には、台湾で生まれて日本で育った自分の時間が刻まれていると思うから。」

台湾生まれの台湾人である自分。日本語でものを考え、日本語で書く小説家としての自分。日本でも台湾でも選挙権を持たない在日外国人としての自分。個人としてだけでなく、社会的に自分がどう位置づけられるかというアイデンティティを巡る旅を著者は今も続けている。

この春　西浦にリノベーションで
ひっそりオープン！！
自然農のお店＆体験の宿
廻廻 -KAIE-
■自然農のお店
営業時間：11：00～16：00
日・月・火のみ
西浦みかん　ストレートジュース
ドライフルーツ　農作物加工品
手作り品　様々量り売り致します！
■体験の宿
農作業体験もできます。
お問い合わせください。
〒410-0243 沼津市西浦久料144-8
TEL：090-3836-4583
FAX：055-919-5552

ミネラル酵素ドリンク教室
御予約にて開催いたします
費用 3500円（材料費を含む）
連絡先 駿東郡清水町徳倉 あんさ
電話：070-6410-7538（こうの）

第1回 静岡オーガニック
フェスティバル in 沼津
おいしくたのしくみんながツナガル
オーガニックDay
2018年12月1日（土） 入場無料
9:00~16:00
会場 愛鷹運動公園 自由広場　入場無料・小雨決行
お問い合わせ
静岡オーガニックフェスティバル実行委員会事務局
Tel 080-5251-6501（山本）
e-mail：info@shizuokaorganicfes.com

ひろばパソコン教室のご案内
デジカメ　iPad
スマホ買ったけど
使いこなせない（＞＜。）
第2・4水曜日 午後7時～8時半
市民ひろばにて
1回 1000円
【個別指導対応】
iPad、スマホの使い方、ワード、エクセル、
デジカメ、画像処理、3DCADの使い方等
連絡先：080-3061-1561（原田）

労働相談受け付けます！
三島ふれあいユニオン
首切り解雇、残業代未払い
職場でのパワハラ・セクハラ
ひとりで悩まないで相談してください
三島ふれあいユニオンは
全力であなたをサポートします
電話：090-4216-8417
Eメール：hrwsiys@yahoo.co.jp